

令和6年能登半島地震 災害対策ニュース

「厳しい環境での就労に感謝」

中西委員長が就労者を激励



当日就労している仲間を激励する中西委員長(町野)

災害時の厳しい環境の中で応急仮設木造住宅建設に携わる就労者を激励するため、4月17日に全建総連とJBNが合同で現地激励を実施。全建総連から8県連・組合が参加し、町野(まちな)の仮設団地、鳳至(ふげし)小学校仮設団地の2団地を訪れ、代表して中西委員長が就労者を激励しました。

全木協が手掛ける応急仮設木造住宅建設が集中する輪島市周辺の当日の気温は20度超とここ1ヵ月で大きく上昇、被災地域のため十分な環境提供が難しい状況での就労が続いています。

仮設建設開始以降、多数の県連・組合から「就労する仲間を激励したい」との要望を受けて現地激励を実施しました。

参加者はお昼休憩のタイミングに合わせて町野仮設団地に集合。当日就労している約130

人の仲間を前にセレモニーを行い、全木協の大野理事長(JBN会長)は、「被災者が仮設への入居を待っている。就労者の皆さんも長期間家を空けて対応いただき感謝申し上げます。事故やケガがないようにしてほしい」とねぎらいました。

続いて全木協の中西副理事長(全建総連委員長)が挨拶し、「宿泊場所等で大変ご不便をおかけしているが、全国各地より被災地、被災者のために就労いただき感謝申し上げます。

木造仮設は木の温もりを感じるもので、これまで建設した仮設の入居者からは大変好評いただいている。仮設としての役割を終えた後は、復興公営住宅として転用される予定で、皆さんの行った仕事は後々にも残っていき、被災者の生活再建になるものなので、頑張っしてほしい」と述べました。

その後、全木協・建設統括本部長（JBN 副会長）で、今回の応急仮設木造住宅建設の主幹工事工務店の一つを務める株式会社エバーワールドの久原社長から、今回の仮設の仕様について説明。断熱等級は5と高くし、部屋タイプも標準以外に車いす利用者用の設計、初の2階建てや南北反転タイプもあることなどについて説明がありました。

参加者は各々に所属組合員の労をねぎらい、仮設住宅の内外を見学。「私の家よりも住宅性能が高い」「一刻も早くこの住宅を被災者に届けてほしい」と感想がありました。

2カ所目の鳳至小学校仮設団地でも、参加者各々で視察、激励。輪島市街地の被災状況や鳳至小学校の1階部分が数十センチ沈下している状況を見て、一刻も早い復旧・復興を遂げ、地元の人が安心して暮らせるようにと感想を述べました。

当日は、建設キャリアアップシステムの運営を担っている建設業振興基金の長谷川専務理事も同行し、現場でのカードタッチ環境等を視察しました。

【令和6年能登半島地震 仮設団地一覧】

団地名	戸数	みんなの家等	サポートセンター	完成(予定)
①町野1、2	70	1		5月下旬
②町野3	198	2	1	5月下旬
③南志見グラウンド	100	1		4月下旬
④鳳至小学校	107	1	1	5月下旬
⑤上戸町第3団地	9			6月下旬
⑥正院町第3団地	19			6月上旬
⑦若山町第2団地	4			6月下旬
⑧旧七浦小学校	44	1		6月下旬
合計	551	6	2	



仮設住宅とは思えない高い仕様に感心する参加者(町野・写真左)、形が見え始めた仮設住宅について話をする石川の仲間(鳳至・写真右)



手前側が最近大工工事を始めた工区で奥側は瓦作業も進行している(町野3)



4月下旬に完了検査予定の南志見仮設団地は順調に作業が進む(写真上下・17日撮影)